# 續哥谷郡類

八止

須賀通夫之章

續古今部類奏之三十二

三十番歌合

題

遠山春暮

作者 隱名

尤

宮内卿方

從二位藤原朝臣教国

新大納言典侍

入道前尤大臣女

寄弓戀

吉野弘隆藏書

文明十三年九月畫

續庫

権大納言典侍

権大納言坊原朝臣教秀

従三位藤原朝臣基綱

藏人左少辨坊原元長

左近衛大將坊原朝臣伊量

民部卿源朝臣忠富

右

式部卿親王

権大納言坊原朝臣季春

勾當内侍

女房

左衛門督橘以量

按察使藤原朝臣親長

従三位藤原朝臣為廣

権大納言源朝臣雅行

參議右近衛権中將藤原實隆朝臣

參議左近衛権中將坊原朝臣季經

一書　遠山庶

たゝ物　宮御方

山風にうの華さくまきて冴ゆるなり
風をまつ山のとをしらくも

右　武蔵卿親王

山ふかみいまやをしかのつまとうん
とゝぬきさらりわけかのしたん

たゝ方の読ゆ仮名こゝろ
作　たゝ方云　たゝ方姿やさしふく
まうしたす　たゝ方ゆ　たゝ方云

河優義のもとにて定持院

二番

左　後二位藤原朝臣教國

さをしかのこゑのみちのくの山ぢかく
ものすさまじき秋のあけぼの

右持　按大納言藤原朝臣李春

ものすさまじきこゑのみちのくの山ぢかく
ものすさまじき秋のあけぼの

右中宮大夫藤原朝臣

まとの方藤原朝臣

三番

左持　按大納言典侍

ひかりのかぎりなくてはるかなるものは
山ぢのはてのみちのくまでか

右　白當門侍

ひかりのかぎりなくてはるかなるものは

つらしよ山のちるもみぢは
右京太夫山家集
わまりて平懐やたゞなるね
よいつまたらまものをいるさ
ひいさらんこゝろるるやうゆり
とて侍よりゆりね
四番
九月
入道前九大食女
ぬまやうき身と恨てやおもひいる
山ちとこゝとまきをしのみ

女房

六
こやうに山のひとそこ
いくさとけてこゝのおらくる
九方ゆ見いる山をいつそわ
ゆへまる山のりれまそなまり
てきこゝ侍る文ういる山のく
よりいる家ゆいくこゝます
侍ゆや　九方ゆ　右京太夫文ゆう
ゆうて侍る仮　九重の雅侍ゆ
しゆ侍ゆ　天皇侍也

きさめられ侍り

太書

たゝ

新大納言典侍

ちはやぶる神の山もやゝ紅葉ぬるかとしの
雪のうすらこのうち

たゝ

九条侍従摂政

つもるとも見まほしきかな白雪の
ふるの庵のいとゝきこゆる

九条内大臣

九条内大臣

入道前太政大臣

たかの遠山庵の雪

てしらもきこえもしらぬ
いろ山もとゝはしらぬ
まちもとゝ絶すして
とはしまちの雪ぬ

右歌

を

秋ふかき風に
ふるとしらぬ
なく庵やゝ

按察使前太政大臣教秀

右衛

按察使前太政大臣教長

[illegible]

右の歌はまてしらぬ事をとりいそ
と山ふかくこそ[illegible]
[illegible]
たゝ八海[illegible]

七番

たゝ

[illegible]
[illegible]

右

後二條殿[illegible]

後二條殿[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるかに見わたすに四方のうみのなかにうかびたる山のすがたいとをかしくなつかしきもの

右拾

なつかしき人の心ばせ山ぶかき谷の水にもたとへつべし

校大納言源為房卿

おのがかたちにうつりこそすれ

右中　たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

右拾

たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

参議為忠卿

たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

右中　山ぶかき谷の水にもたとへつべし

なつかしき人の心ばせ

右拾

山ぶかき谷の水にもたとへつべし

なつかしき人の心ばせ

九番

右拾

山ぶかき谷の水にもたとへつべし

なつかしき人の心ばせ

右中

たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

右拾

たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

右中　おのがかたちにうつりこそすれ

なつかしき人の心ばせ

右拾

おのがかたちにうつりこそすれ

なつかしき人の心ばせ

右中　たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

右拾

たゆまずながれ来れば水の底にも

あるかのごとくうつりこそすれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十妻

たれ

[illegible]

[illegible]

右

参議従五位下侍従中将藤原朝臣[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十花信　女房

ちるとしえぬ秋のうるはしさをなるせ川
いはるるまちりてけりなん

右　為廣卿

ちるもみてくるしの葉や夢を木も
れゆく秋のしるみるまに

九方ト　右方ト

をしいるかしらの花をうらはる
右方ト　九方ト

ひかるせにの九流きるくはつて宣く

侍ろ　一日ようあるとて

中二番

九　伝量心

林もいろうるとやちるらん
をひまつりるくの花まもそ

右番　彩大納言典侍

玉鬘の新をのてゆくわさの
見れいなるとうみるるん

たまかつら白かもき初る八ぢれと理も
りうへ秋ちるとちるを

たちてしやうきさてさらいて太
新とのこてゆく秋のとひ別ハ
なるとこたみるるんるといる風
優なるすしの人やて待さてま
是待り

十三番

左　季經

ゆく秋のこりとこれいたらのつる
たちひるつるまのこのこ

右　親長卿

あるこるるものしむゆてとり秋の
ゆるれとすこのるといやや
たた方人とのくたまされるは
とりてこまきて待るり待
十四番

左持　季春

かきりわりてこまるね物よりの人の
わしむるやすするまま

右　基綱

年とまとこるひてて表てよ

[illegible]

九八　あるひとの文をもし

かまくらの方へいまゝ

侍りしとき

侍りしとき

なをすまきよりとのまうす

十六番

九　武蔵の新王

なをひらのこの歌をかきあらはす

ちりぬるはなのあるときのうれふ

右俗　校大酒を典侍

いまはせんうちもしろこそ浦こそ

ふるぬ梅はすゝのまつやま

右中　たれゆくかたをこそ人の

ゆかひとりと侍りつゝとはいきやうの少

ゆかぬかれ詞も

会ずや右をそなへて侍

と定めらる

十六番

九　雅行

ちりうるよ若のとのれりとて

蓋ゆくわれのうたをやうん

太拾　　白雲内侍

うたてしもこそひりしなれ今八月
なれてわきこの蓋をてみるふ
たりのきてかりるすしそのの
きさわりたいさうたるよいまさ
見ぬつきすしきわれし

十七番　　入道前太政大臣女

たれ
見るうきなるんるまに戸をすてて

わすれたるれくれやゆうん

太　　散素仁

きのうのうちわすてし蓋ぬれハ
ものうひひと七月のあさ
あるんるさとしるわ法るの河
の秋すてきてみくきすや七月
の妹んゆもと戸をすしく行る人
うすや才三白蓋ぬれそもうさ
れるやいうの女房秋河りすや
ちんうやうさ

十八番

た　　實隆卿

あらしてふ秋はいかなれこそこの
ゆもとうんかはよわるねはのうら

太　　文淵方

花すすきまねくをしたれゆく
こまもねはのつゆの余波より

たかやとをかぜのとはいかなる
ゆれしと袖白のつきぶりうた

ゆうへ太首尾お恋優英のすき名

定ゆして

十九番

た　　以量

こまもくのうてされ花もとはくゆく
秋のはつうるうるすすくうた

太　　忠冨卿

雲てゆく秋とまれとまりたても
ゆるるそてハ雲はるはるきり

たかうるく待ち　太八尾花
のうれてはまりんして不変の

まことにわりて　たゞ猶の事す
くるにまりて　右負侍り
二十首
右　教國卿
うきねとゝるもしれかなくられの
つゆのくさのまくらに
右　元長
しらしらしひわ　とゝ　ひ　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ふるさとのいりさしのかぬ
右方古今集　まるいをの海に　ひ　す　ち
あさのうらをるれやんひとつをさ
やうしのあるとしの白同とて
右方新古今集　収侍ましいま
八の月のれとゝ　ふるれす　久善
のをといつる　ちとよる　月
ちいくとも　出を　ありし
は海のよ　禅　関　侍
二白いきて　八方
やうきてのの　八　首
出をまて　雑　侍れ　海　参

とまりぬるを世に侍る人の歌まきらし
さりあへぬ人の名ばかりとゞまれ
く治定年

世一首 寄月恋

たゝね

新大納言典侍

ひさしきふるもゝよりてわつらはしみ
とゝしくへしてもゝ月

右

実隆卿

うき中のあいらるのこゝろつゆと
へめとせてこゝひきてこゝてつ

右方才女白ひきてこゝてつ
いるこゝろんこゝ たゝ才一
才の白の絵の文字十四書の右
つ方ゝ白ゝ絵 ゝりて物ゝさ
たまり侍り

世二首

たゝね

文御方

つまるゝ人のつ月ゝゆゝ
心よりてなゝ月ゝん

右

権大納言典侍

とをしらぬ世をてくいてゝあのまん
末の世をてくいてゝあのまん
たれとてうるきこゝろをてゝ
ゆりぬ

世三番

たゆ　　李經

ちかりつるまゝにあてうれわつさう
ゝれるひとゝるこゝろをまん

わ　　伝量

うきをしらるいてわつさう

やをいてゝこゝろひとまる

わ　　元長

たのちはてくき
こゝろをしてゝ

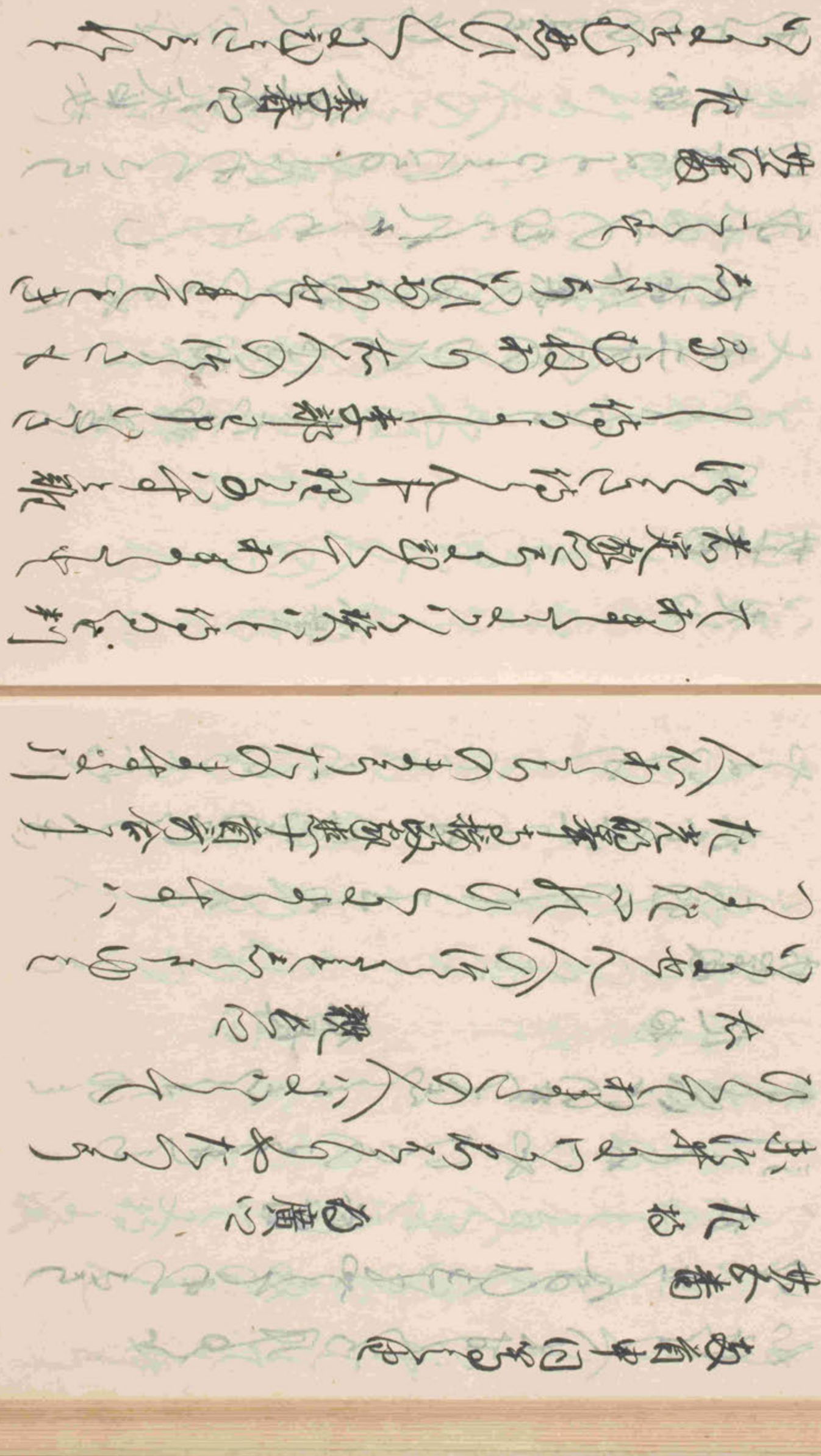
世四番

たね　　忠宣

まさいはの松もたゝとゝゆき
引とゝわつやけさのまゝ

わ

いてをんひきもやてわつさう
んはすくもすゝる月をと



わすらのまちうけたること　入道前太政大臣女

太政

四月のよるとはなしにわつさうの
ゆきとふるこのゆふくれそめけむ

太政大臣家の方をおもひつるやた
才二才三のかれてきはのさりし
ふるさとをたのもしかりし宮

ぬ

廿七番　収量

左右

いにしへそなるよいくんわたさゆみ
ひくるつきるたれ人のこころかい

右　雅行卿

とりつたへしはつしも梓ら
又すそんるこころりしやと
たれ同科こそ定ら

廿八番

左勝　女房

ゆそるみつ人のこころもちら
とそていくもゆつき

右

武蔵国秩父郡

ほしとい志ゝ

りものわ乃ゝ

ゝ

たりものあり

れいまうやまこの

たゝ河のつまし

ゝまこゝ

ゝ

ゝ

人をまねらきてあしらるる
ゆつるの君はこれはなは
右　勾當内侍
ふるまくいてふれまんあつさら
ゆもわすらるるこころと
たえしをしのぶ秋の夜の玉鄙　右大臣
世をも先行ねと定ゆ年

續古今和歌集卷之二十二
將軍家奇合　文暦二年六月十日
原上霞
一番　左　前関白
かすみこめる山もとの里人の春はあけ
ぬるしの浪たかき武蔵野の原
右　関白
いたまてやいつもかすみのたつ
春をも霞みあさ山の峯の
はつ奇合判中（きりし末ふ）

續庫

本

とゝのこりこそ
たゞ
ちりのこるとも
春の限りなき
ものとこそ
いとゝ
ながめ
ぬるかな
ゆく
春の
ものの
ことの
はの
ちり
ぬる
ことの
はの
ちり
ぬる
ことの
はの
ちり
ぬる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二番　たち　天台座主尊應

[illegible]

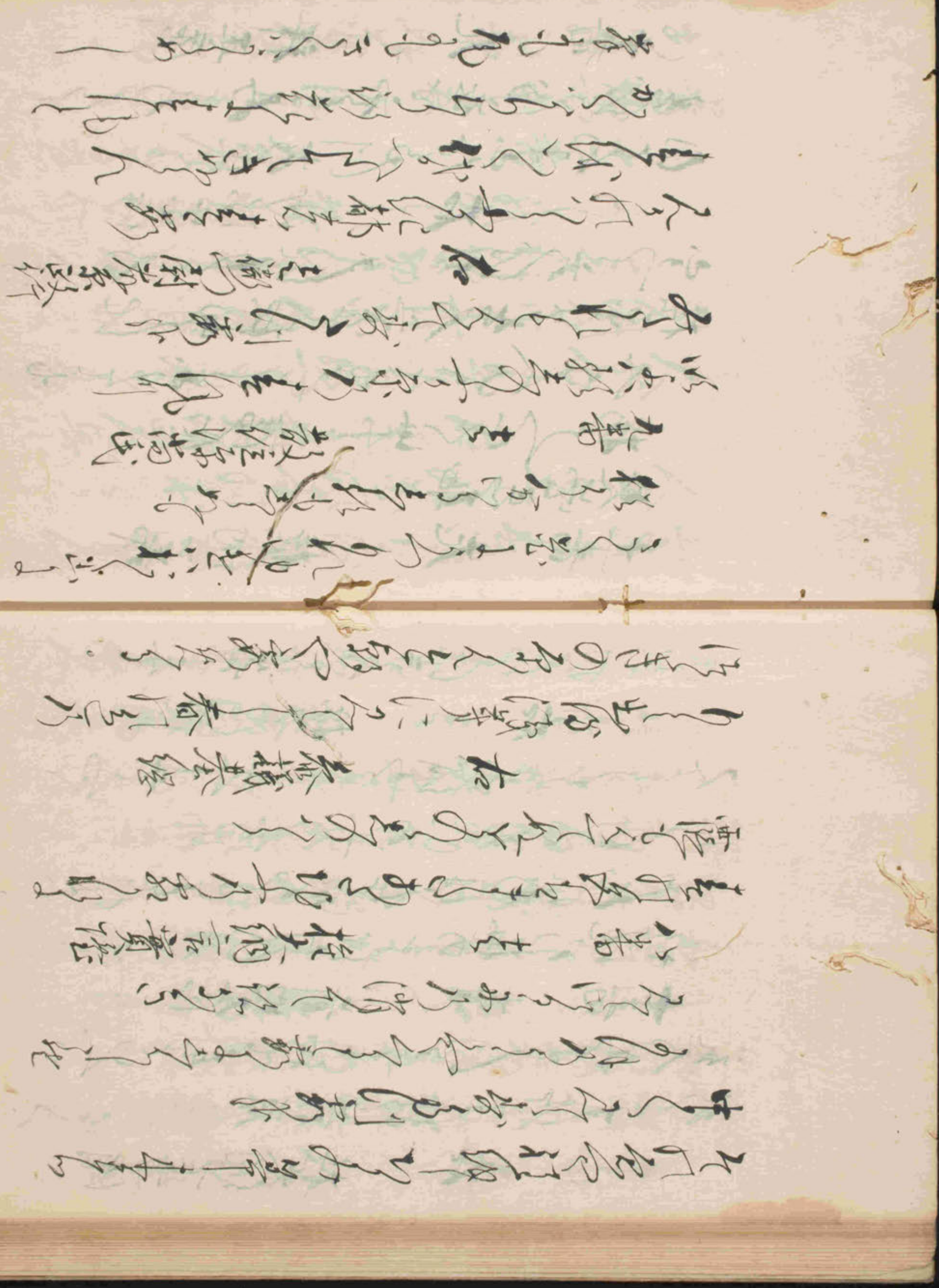
[illegible]

[illegible]

[illegible]　右

[illegible]　右

[illegible]　右



十番　左　釋正廣

[illegible]を[illegible]みの[illegible]

[illegible]山[illegible]

右　沙弥宗伊

[illegible]

[illegible]原[illegible]

みふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一番　左　橋綱云義

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右　前大僧正[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二番　天台座主[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五番　右　将大納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六番　右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七番　右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右　　[illegible]

十八番　散位源尚氏

右　　渋谷宗行

十九番　[illegible]

右　　開白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右　　桜宮康親長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世尊寺

入道前左大臣

心の花[illegible]

[illegible]

右　　権大納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世尊寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右　　春議[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

開白

日八王山のあるじ八社なる[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世尊寺

釋正廣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右

沙深寺

[illegible]

世尊寺

[illegible]

右

開白

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三十番　権大納言義[illegible]

[illegible]

右　お大僧正行遍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田早稲

廿一番九　前大納言為家卿

[illegible]

[illegible]

右　権大納言定[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿二番九　入道おほきおほいまうち

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

世二番左

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

世四番

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世六番　た

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世七番　た

[illegible]

[illegible]

右　　お大僧正俊興

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十二番を　　右衛門督為房

[illegible]

月[illegible]の[illegible]

右　　沙弥宗行

秋[illegible]月乃[illegible]

みさ[illegible]

かき[illegible]

[illegible]乃秋[illegible]

四十三番を　　右大臣

乃[illegible]

不[illegible]

右　　開白

[illegible]

神[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十四番を　　権中納言実房

[illegible]

[illegible]月乃[illegible]

右　　沙弥宗世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十五番

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

前大納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十六番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四十七番　前関白

なにはがた　こゑうる黄昏の　秋の月　影も
うらみを　月は残らん

右　大将公良

袖さゆる　夜半の鏡の　秋の月　影も
月にも　うつるなりけり　秋の月

右　宰相実

四十八番　左

長月の　月の秋　宿の宮　雲の
月　秋の月

右　権大納言兼

年ふるの　月の秋　有家

右　権中納言雅長

いにしへの　月の秋　雲の
人の心の　月の秋

右　左

たのしみて　月の秋　雲の
なぐさめの　月の秋

四十九番　左　天台座主慈

何よみて　千年の中の　月の
みたらの　月の秋

右　権大納言実隆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五十二番　前内大臣

消息のこりなくてうしなはるも
菊の[illegible]枯てのこるる

右　沙弥宗世

[illegible]
ひとりのこりにこそはけれ
[illegible]

五十三番　[illegible]

池の面に菊まがきをみるなかに
[illegible]

右　[illegible]

[illegible]
[illegible]
ここ[illegible]
[illegible]

五十四番　[illegible]

[illegible]
菊の[illegible]

右　前大僧正慈遍

[illegible]りとなりまれいとまりて
[illegible]を[illegible]清水を[illegible]
[illegible]に[illegible]さんを白張の
[illegible]を[illegible]
[illegible]

五十六番　藤原定廣

[illegible]のうすをみるにかりて
と[illegible]

右　左大将実良

[illegible]

[illegible]まの[illegible]をさうる[illegible]
うすをも[illegible]
[illegible]

五十七番　前関白

[illegible]
[illegible]

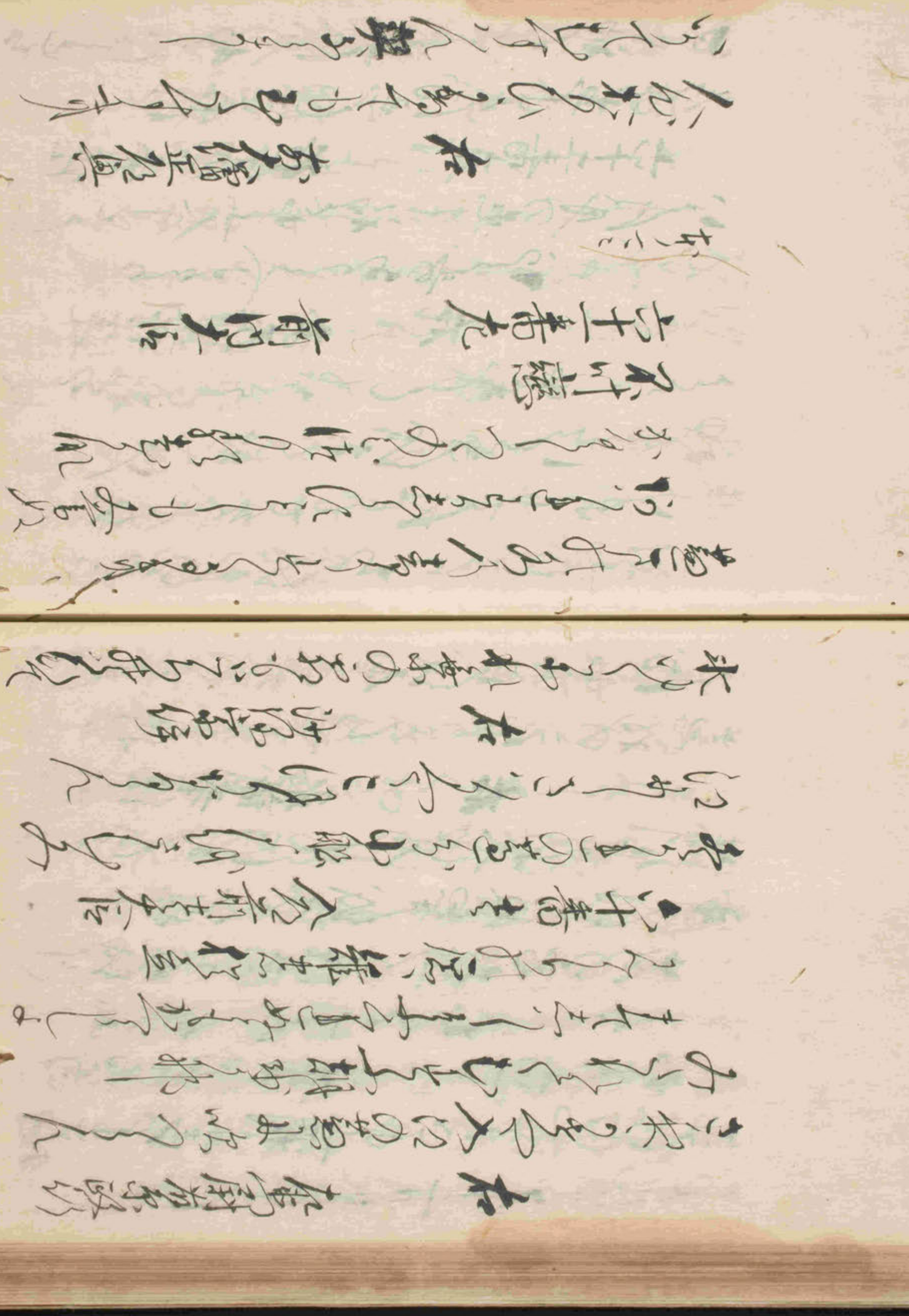
右　摂政兼宣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

姓名錄

六十番歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十七番左

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前略日

十五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

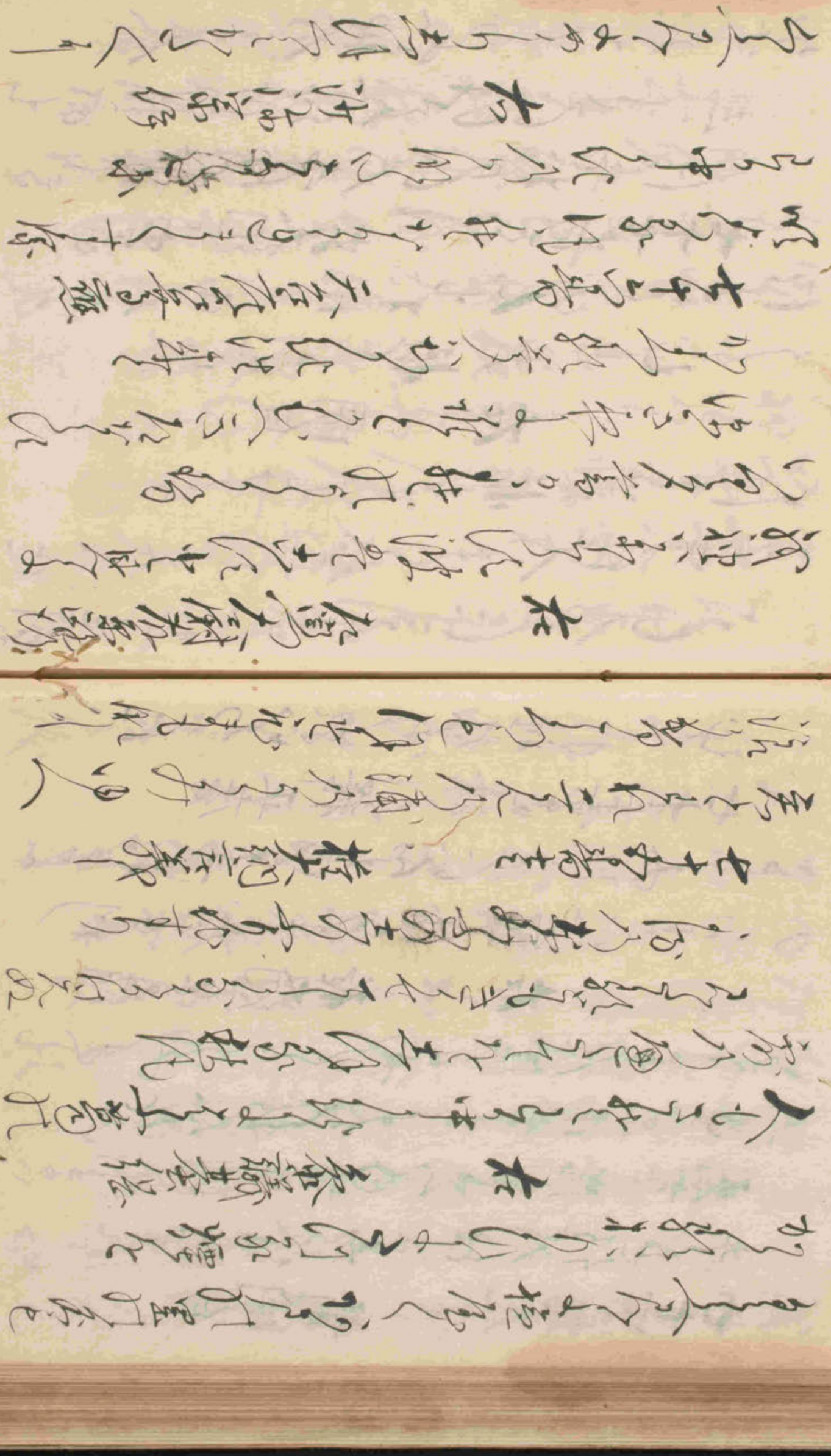
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

七十七番

右　　開白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

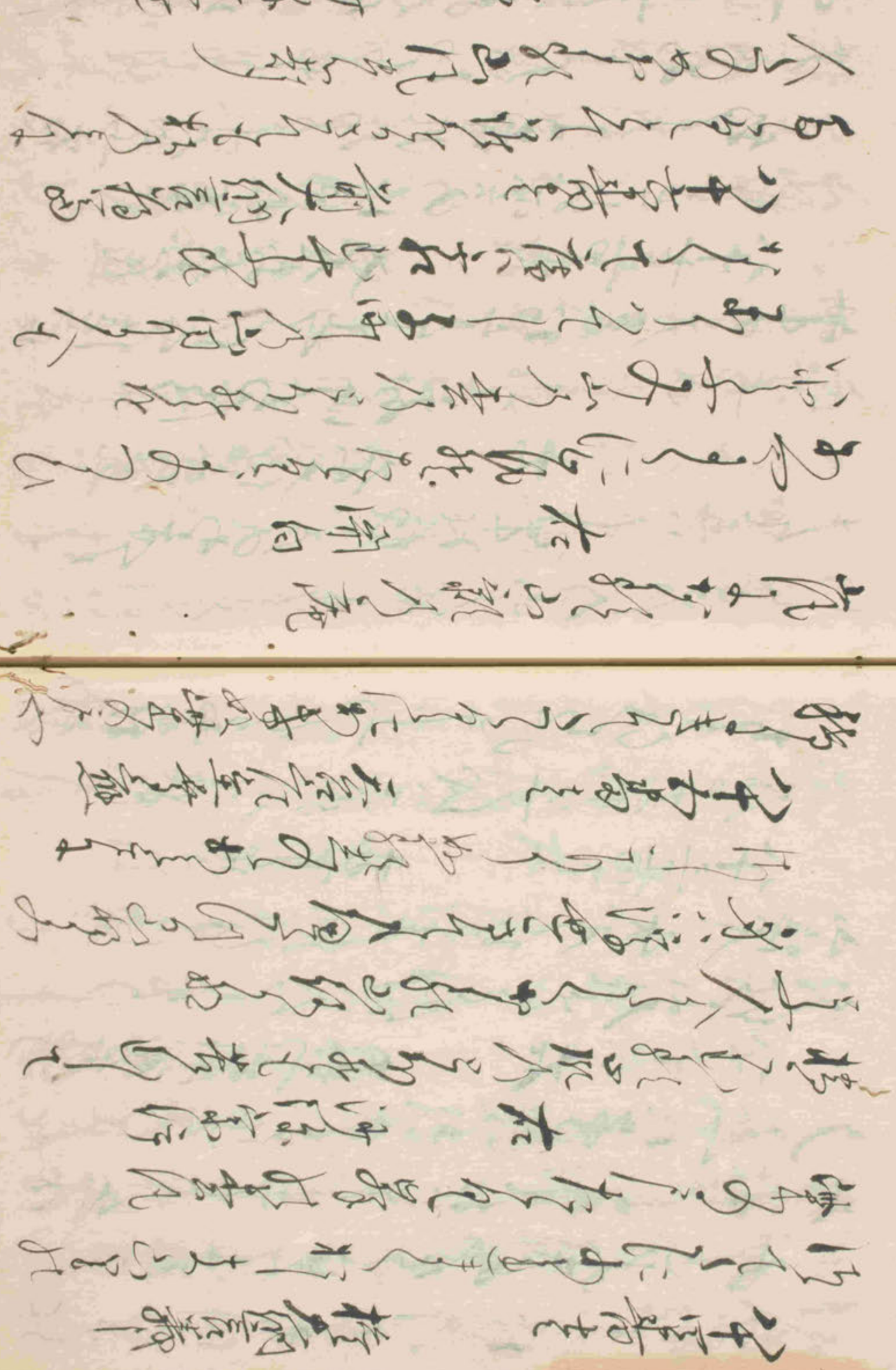
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



八十九番

[illegible]

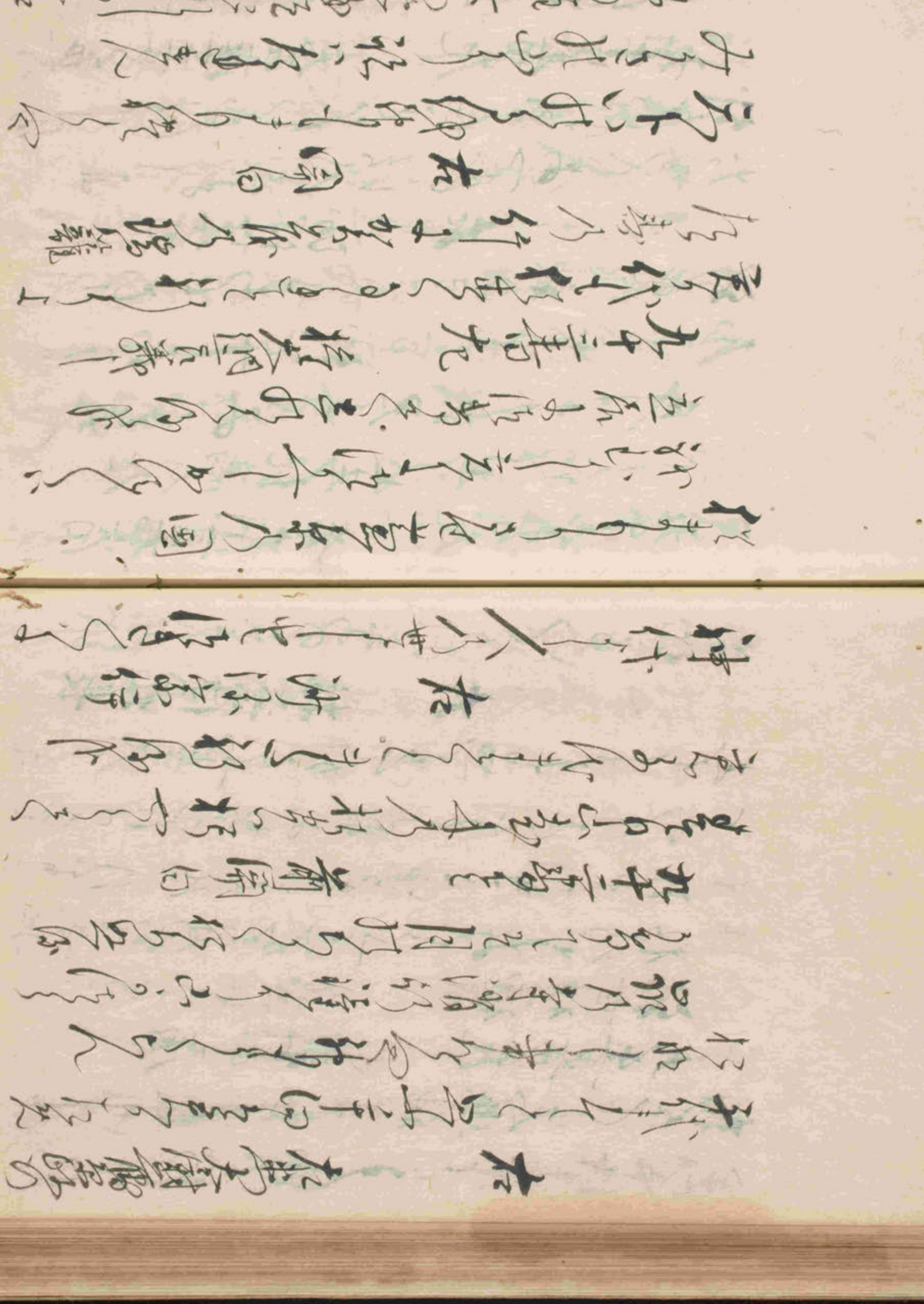
[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

加賀国百姓[illegible]

[illegible]

右　権大納言高清

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百姓　[illegible]　散位源尚氏

[illegible]

[illegible]

右　参議基綱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左方

二級　前関白　勝　三　負四　持　三

中納言大伴家持　三一
正三位藤原朝臣仲麻呂　三一
正三位藤原朝臣乙縄　三一
正三位藤原朝臣豊成　三一
正三位藤原朝臣永手　三一
正三位藤原朝臣八束　二一
正三位藤原朝臣真先　二一
正三位藤原朝臣巨勢麻呂　二一
正三位藤原朝臣乙麻呂　二一
正三位藤原朝臣豊嗣　二一
正三位藤原朝臣雄田麻呂　二一
正三位藤原朝臣百川　二一
正三位藤原朝臣小黒麻呂　二一
正三位藤原朝臣浄人　二一
正三位藤原朝臣魚名　二一
正三位藤原朝臣縄麻呂　二一
正三位藤原朝臣田麻呂　二一
正三位藤原朝臣内麻呂　二一
正三位藤原朝臣冬嗣　二一
正三位藤原朝臣良房　二一
正三位藤原朝臣基経　二一
正三位藤原朝臣時平　二一
正三位藤原朝臣忠平　二一
正三位藤原朝臣実頼　二一
正三位藤原朝臣伊尹　二一
正三位藤原朝臣兼通　二一
正三位藤原朝臣兼家　二一
正三位藤原朝臣道長　二一
正三位藤原朝臣頼通　二一
正三位藤原朝臣教通　二一
正三位藤原朝臣師実　二一
正三位藤原朝臣師通　二一
正三位藤原朝臣忠実　二一
正三位藤原朝臣忠通　二一
正三位藤原朝臣頼長　二一
正三位藤原朝臣兼実　二一
正三位藤原朝臣実房　二一
正三位藤原朝臣実宣　二一
正三位藤原朝臣実雄　二一
正三位藤原朝臣実氏　二一
正三位藤原朝臣実経　二一
正三位藤原朝臣実基　二一
正三位藤原朝臣実兼　二一
正三位藤原朝臣実躬　二一
正三位藤原朝臣実忠　二一
正三位藤原朝臣実泰

判者大納言入道宋雅

題者中納言入道宋世

原上露　見草原　農網涼

田早秋　月似鏡　蓮間水

不叶心戀　未恨戀　山家戸

初世神祇

續千合部類卷之三十四

六十番詩千合　文明十五年正月十三日

一番

雪中雪　閑白

左　更刷金衣正月雪

春天灑雪未吹晴　花中百囀管絃声

佐是東風送寒去

右　女房

續庫

[illegible]ぬ梅と花をちらん

[illegible]

二番

左　　左大臣

陽庭残雪樹梢傾　　出谷嬌鶯金羽軽

恰似高山呼萬歳　　新年先報両三声

雪中梅頭不足称

右　　正品親王

[illegible]

[illegible]

三番

左　　内大臣

餘寒谷々雪推々　　一曲未終春未回

寄語東風吹着意　　金衣犯宿去年梅

右中宮[illegible]

武部卿親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四番

左　同山

東風吹雪酒旗闌　山長雛鶯不忍聲
似報春皇呈上瑞　一壺三島羨万年歡

右　谷戸四郎

雪さゆる夕べの月のあかきかな
雪ふるこゑ〳〵寸枝さかうめを

五番

左　宗山

四季未晴今雪吹　仙園洛下醉黄鶴
綿蕚壺渋畫橋曉　強半春寒花可遲

右　谷戸弥勝こと

はるゝものとてはかりの雪ふれば花の元こゝ
とのまいりのうらうめをりをり多
一同ヨ弥勝のまをりを

六番

左　一位殿

一両壺巻毫雪侯　従一位通秀
還喬先領上林枝

錦亞美愛寒梅重　風似暮春花落時

頂しゐ戸く

右　天台座主尊應

色ふかき花の梅うゑそめ
いろねをうつしさかうゑひて
大そうそうく物

七番

左　権大納言教秀

微雪欲晴初聽鶯　又知春滿九重城
東風料峭遷喬処　出谷寒殘歌未成

一二句ちゐ三四こ句ゑ相違ゑ

右　前大僧正増運

雪のうちにさおいわうゑひそと
こけてふ枝のゆさやいてく
才二句才五句不原幾こに
花ゑ之

八番

左　権大納言高清

春雪吹晴景更宜　上林頃刻似花時
不知黄鳥応寒否　百囀曲新瓊樹枝

右[illegible]頭[illegible]

右　権大納言義尚

うらこぬ[illegible]羽風を[illegible]

[illegible]の雪[illegible]

[illegible]

九番

左　左近大将冬良

諸峯吹雪霽光晴　吟裡蒲簾扇嫩[illegible]

天長余寒春已淺　梅花紅處兩三枝

頭[illegible]之

右　入道左大臣

[illegible]

[illegible]

十番

左　大蔵卿俊茂

東風吹雪曉[illegible]　黄鳥壱中寒更多

似報梅花春信早　玉埃散處諸將和

伝[illegible]字未穏[illegible]

右　右大臣

本長清さふまさ況さかさてあさ雪乃
くれ方こちらし管さ之ゝ
あさ乃ゝ事中納
十番
左
臘雪殘時春雪添
蛾眉不怯金衣薄
右
按察使親長
ひ乃家乃そ乃ゝ百道行ゆき
左とりとゝひて管乃ゝ
十二番
左
雜管声渋曲形絶
豈有餘寒去刧来
右
権中納言実隆
雨後春遲雪作堆
佛鳥若効雛啾律
右
権中納言永継
ちゝとゝ道とかさる形乃ゝ
おさの乃ゝ乃ゝ管そ形ゝ

[illegible]

十三番

左

餘寒春淺雪龍宮　　參議基綱

凍損金衣都不識　　鶯路初從水底通

燕南誤作落花風

燕南字不足取

右

[illegible]　　次珠宋世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四番

左

雪自板垣連野橋　　蘭坡

餘寒料峭花間路　　出園黄鳥未遷喬

春尽陳腸[illegible]　　步温金衣吹有消

右

[illegible]　　前左近中將教國

[illegible]

十五番

[illegible]

左

年後吾深花自遲
餘寒不鎖一壺曉

横川
初知春在著梅枝
近聽為歌遠聽詩

右

谷鶯勝〻出戸之

春淺政為
[illegible]
[illegible]
[illegible]

梅花笛落雪飛晨　上有黄鶯囀近人
窓掩餘寒聽彷彿　一声如臘一声春

一同ト百こゝ

右　尤近衛将藤原雅俊

[illegible]

十八番

尤　同金

尋常晴月聽喧囀　無奈余寒未晴

一夜東風変春時

百こゝ申之

右　散位源尚氏

[illegible]

十九番

尤　藏人神祇少副卜部兼致

風送余寒吾輩吹　朝来黄鳥出出時
為梅偏有護花意　凍損金衣総不知

宣旨下之

右　大尉藤原政行

[illegible]

二十番

左　秀才菅原和長

春正来時暖正遲
霧々微雲隔宮柳
為花似報余寒重　毛入梅辺不惜色

下宣旨也

右　波斯宗伊

梅[illegible]
[illegible]

二十一番

左　江畔柳　横川

楊柳稜々翠微宜　江辺毎日不春風
市橋烟水人如識　舟在千条万縷中

左殊事之下之

右　　権大納言義尚

春うらゝかに花のさくらをうくるかなとみるにはなのくさ柳

みるやうの花もさくらもゆり

二十二番

左

維舟江畔欲斜陽　　撓々細云廣光

従是籠烟思雨日　　弱柳千條映水長

百〻世界之　　系々吹乱深鵝黄

右　　左馬大尉藤原政朝

風もなをこゝにしれ柳をもなれはに

みどりのこゝろおくるやへゝ

元孫勝こゝ世界之

二十三番

左

江辺楊柳拂奠梁　　春後碁盤

影漫千條羅帯水　　波除春濃送艶陽

穀紋深皺重復　　穀紋深出小鵝黄

右　　右大臣

かりかねの江川の水のけるゝ

[illegible]

[illegible]

二十四番

左

江柳緑〻花識春　　桂大納言為忠

東風他日如糸乱後　　麹塵浮處緑猶新

可惜昔薛濤水濱

右

[illegible]　　前左近中将教国

[illegible]

なびく柳を[illegible]

[illegible]

二十五番

左

富柳陰々江水流　　権中納言実隆

往還路熟釣魚叟　　風枝裏處如維舟

頁〻也尸之　　屡見栄枯春又秋

右

さゝなれの[illegible]へ江の柳うちなびき　　波坏宗伊

みうらの[illegible]

風折ふく柳哉

二十六番　桃源

左　金鞍繋馬雨晴時
鴨緑江東柳已絲　不向春風折一枝
祇今行糸離人女　卜殊勝こと

右　武部ノ親王
をのつからみとりかさていくえ玉
ゆるいろ水ゝなひく柳て
とれるこ事ふくさ正ふく

二十七番

左　蔦人神祇女副卜歌兼敦
楊柳依々江水邊　春風収處淡於烟
晴猶欲日晩朝落　人倚翠微先紫船

卜冥こと

右　冬淺改為
多みつゝも入江をとゝをあををかさり
ふくゝのまりハはさらあをと形ふく
初文字ふりのひらく作

二十八番

尤

楊柳陰中日漸遲　正今春色度江晴
皮心倒蘸千條乱　可有游魚擬釣糸

右　前大僧正増運

[illegible]

二十九番

尤　秀才菅原和長

一般春色柳條肥　烟晴江辺村舎扉
万縷深成鴨頭緑　晩来可繋釣船帰

魚肥之字不穏ト覆ス

右　前関白太政大臣

[illegible]

大字不覆ルヤウニ又江の字ヲ[illegible]
[illegible]の柳ト仰例いと

三十番

尤　関全

水暖氷消春滿汀　　依々楊柳繞江亭
官橋路与野橋接　　雨後無人私一樣青

左宜　　按察使親長

右

長風入江吹柳枝
うちなびかせる柳かな
ちらしかけ

三十一番

左　　左近大將冬良

江亟晴景望無辺　　柳色青々水接天

最愛春風維舟処　　我糸深出萬條烟
魚宜数万條童畳

右　　一位殿

さゝなみ水わたるゆふ波草ハ
入江のこゝろの柳かな
なびかせの公ちらし侍

三十二番

左　　蘭坡

微暖入江氷始浴　　數株柳色映新流
系々吹乱東風片　　欲為春遊暫繫船

左宜しく下之

右　　廿房

つるさしおろすと入江の夕浪
柳ちるこのみすれなひけり

左　　宗安詞角こたさこく作

三十三番

左

日晩氷消春不遅　　権大納言教秀
青々影落自波上　　江辺楊柳萬條新
応是天公深出糸

右　　右衛門督為廣

春やうら入江の浪のひくをかな
とのもりの弦音ばかりしるしん
ふるる事の新

三十四番

左

千條柳色好風光　　宗山
深不成軍烟雨晩　　短々長々江水傍
羊如鴨緑半鵝黄

右

天台座主尊應

あ〜ひ〜く　新殿の少盛の朔書
かけて入にしるひ〜書柳
朔の字おりひ〜作

三十五番

左

江面風収新柳連　　後一位通秀
晩来廻掉蓑衣客　　清波浸緑半含煙
猶老蓋糸紫巧船

右

江亜相尊之

かをうはるへにうつ原ぬかうすに　　散位源尚氏

なひく　ゑとやあなやさのいと
江掛り

三十六番

左

江畔春温柳色鮮　　同山
漁郷何似官橋暁　　千絲萬縷鎖青烟
不繫金賊只繫船

宣〜

右

かすあしはにゆ〜小舟のおりにて　　宮内卿親王
ゆ〜はるてやあ〜とやさのいと

平雅侍従卿

三十七番

左

江畔柳條籠暖煙
漁翁罷釣維舟去
宜しく下之

右

源三位頼政

入道左大臣

内大臣

鴨頭淥水如天
万縷嶌風斜月前

平頭こ[illegible]病身

三十八番

左

万株新柳掃連漪
満岸春風吹短艇
宜しく下之

右

大蔡侍従茂

畑色相連一水涯
釣糸富處動青糸

かげひさすいけの水をわたるかな
みちにしく文の
春の侍従こ[illegible]

権中納言永継

三十九番

尤

薄暮江村隔秋霧　尤大臣

遺賢亟詔太平日　柳條風暖未吹花

下冥心　影似釣糸拖水涯

右

尤近女將為糸雅後

[illegible]

四十番

尤

関白

千條楊柳饒江頭

春水漁糸釣磯暮

[illegible]

右

[illegible]

四十一番

尤

山家秋

内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲隔山家天一方　鞜分燕尾嶺羊腸
危栫兎不畏来往　留客行堪留道長

右　　亜品親王

世とともにながらへてとしをつみ
さきれるかなかなをきくかな

四十二番　　蘭坡

人家源住白雲隈　吾尽高栫滑似苔

日暮飯樵攀嶮去　檐頭斜柳数枝梅

右　　式部卿親王

ものしらぬ人の石ばしをさとりてし
ひとすちのこるこのもの梅

四十三番　　権中納言実陰

百尺高栫入翠微　雨余苔滑容未稀
樵夫不度夕陽後　只有啼猿抱子帰

冥々世界之

右

紫雲の如くに出来る有へし

つゝしむ道こそ孫のうをり

山の形の幸なり

四十四番

左

百尺こそ榜示可攀

山中今日無遺逸

左方冥々に

右大臣

園林

一家松火隔深山

只詩樵夫共往還

右

世中はつゝしむ人の

いまさかりみるもうをしみ

まみる影山のうけもの

なり

参議改為

四十五番

左

何歳幽居ト此山

晩霞欲度日西癒

左宜

大蔵卿行茂

一榜高跨白雲間

山踏虹蜺肩上還

右　　九条大尉後京政行

[illegible]

[illegible]

四十六番　　横川

左　　竹簡茅舎路高低

雲不可拂山可拂　　蜀雨斜懸険桟西

断崖蒼蘚立知處

右　　前関白太政大臣

[illegible]

四十七番　　関白

左　　渓山深處卜閑棲

苔封小徑無人過　　碕水夕中日又西

[illegible]

右　　一位殿

[illegible]

かすひらるれや谷ノうけそ

四十八番　同ゟ

左

路入山林斜日紅　桃源

踈雲不覚危栫消　人家隔岸往来同

　　左　珠勝　　窮谷深林王化中

いつしかふ谷ノかをそ　入道左大臣

かのはてれうとやくるる人

四十九番　ゆそくさこそ作り

左

山家寂々掩松風　秀才蒼示和長

數尺危栫苔更茂　路自白雲深處通

　　甲冠ゟ但青字不穏　樵夫恰似度青紅

　　右　　右　　舊猪為度

すてし世ゆ　ゆらくるる小原ふ

つりやうの尺ノうけそ

をくさそ　ゆそくさこそ

五十番

左

同全

青蘚拂危苔色新

數據茅屋四壁隣　　樵歌一曲太平春

今日山中示王化

宣旨之

右

前左近中將教国

[illegible]

五十一番

左

冬後蒼綱

二三茅屋客過稀　　苔鎖危橋侍翠微

往歴林西断還續　　行々認到小溪扉

旨旨之

右

波阿宗伊

[illegible]

松ノはらこけそなれる

五十二番

左

[illegible]

誰移茅舍住山中
啼鳥一声人不到
苔鎖石梯並路通
蕭然日夜度松風

右

按察使親長

五十三番

尤

宗山

皇山復水両三家
風送樵歌路更縣

數尺高梯何所似
長虹影落夕陽斜

尤

右

前大僧正増運

山嶺民屋与雲齊
聖代微賢並隠士
探春騒客屡攀躋

五十四番

尤

權大納言教秀

突兀高哉百尺梯
水のしたゝるまに〳〵

元弟之世戸之

右　散位尚氏

かけそる松のとをたてハ面とをたて
雲ふそうをみ林のうをそう
ふと影の雅なり

五十五番　同山

左

次路崎岷饒翠微　危桙高處踏殘輝
料知樵客攀雲去　上有梅花半出扉

戸冥世

右　天台座主慈應

我ふかハかのそふ雲ハ神ようを
ふ月ハ少もこれのかけそう
そそう遠見ハ伯見とそ弁三白
弁太白魚乃字　桙の字ハ

五十六番　左近大將冬良

左

路入蹊隈步々迷　樵歌遠聲遠夕秋西
山前山后踏桙上　誰伴白雲安旧栖

元弟之世戸之

右

元治元年侍従家雅楽

五十八番

尤

高砂一曲

敗雅楽煙

六初花曽

青松夫

陪従相連

元大原

右

元治元年侍従家雅楽

五十七番

尤

慶応松原日月

行人釣有筒

三四寸木穏

陪従相連

元大原

右

元治元年侍従家雅楽

[illegible]

[illegible]

平頭[illegible]病[illegible]

五十九番

九

棧路猶高箐路斜　權大納言高清

千山深處有人家

夢魂疑入劒門去　日暗青螺一株霞

左

[illegible]

右

[illegible]人のもとにて

[illegible]

六十番

尤

茅屋蕭條一徑微　通秀

蒼苔路險無人過　古梯幾尺向紫扉

右　只看斜陽樵士歸

山[illegible]　沙汰宋世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題

雪中鶯　江畔柳　山家梅

作者

左方

関白　近衛政家ニ

左大臣　西園寺實遠ニ

内大臣　德大寺實淳ニ

同山　天龍寺香厳院主武家連枝ニ侍者位而文明十五癸卯三月十四日遷去ト予兄慈恩寺侍者ニ時通号ヲ此例ニ

宗山

従一位通秀

権大納言教秀

権大納言高清

左近大将冬良

大蔵卿経茂

権中納言廣光

権中納言實隆

参議基綱

蘭坡　文明七年乙未十二月廿日西堂臨川寺入院文明九年丁酉黄衣長老成文明十七年乙巳十月南禅寺入院

横川　文明七年乙未十二月諸山西堂成文明十年戊戌十刹持寺入院文明十三年庚子七月坐領相国之帳

桃源　文明十三年庚子世寺持入寺西堂文明十八年丙午八月十六日相国入寺

周麟　長享三年戊申等持入院十刹西堂明應四年乙卯三月相国寺入院

周全　長享三年己酉西堂成字切奇此時平僧〻相国大智院僧俗性將軍家人其比有覚〻

薇人神祇少副卜部兼致

秀才菅原和長

右方

女房　後土御門院

亜品親王

式部卿親王

前関白太政大臣　二条持通公

一位殿
天台座主尊應
前大僧正僧運
權大納言義尚
入道左大臣　溥任倫ん
右大臣　大炊御門信量ム
按察使親長
權中納言永継
治部卿宋世
前左近中將教国
參議政為
右衛門督為廣
左近衛中將藤原雅俊
散位源尚氏
左衛門大尉藤原政行
治部宗伊
讀師
左　權大納言高清
右　從一位通秀

論師

尤　秀才菅原和長

右　散位源尚氏

判者　衆議

文明十五季丁正月十三日

續庫

續歌合巻之三十五

二十一番　永禄六年八月日

月前松風

尤持　一番　中納言

月よりは紀雲ふたてたゝうや分うし

ふるとてしも松風

右

松ふきし風ふ絶つてたゝうや屋き

雲とゝうらうの筆の月新

尤今月よりき方ふ約文衆

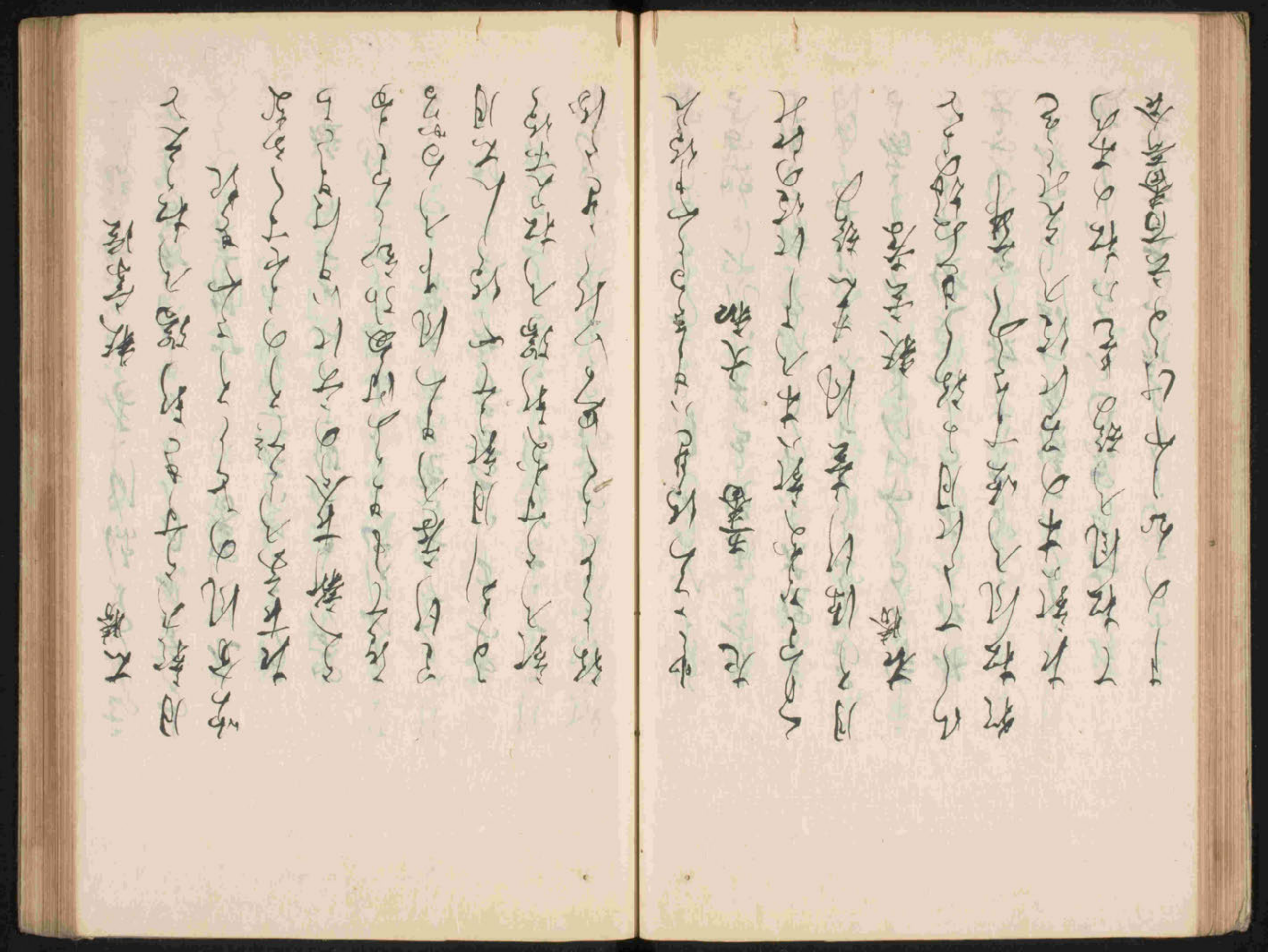
三年の冬合いうんの里を出
り雲にたとへ新はれまよ経夜の
の判者月にたとへも中侍るたよの和
ゆうるう中月月の心を侍り
やんと雅うに秋寄も月次をくして
あの夜きう右の新左大うよ雲ハうの
をしひ年の夜風と松を強て月と
うの中を分にを心用組松よの
三うを雲とううをとを侍を
第後の遠の中にはの久侍を

あををして可ね持れ
左持　二番　權大僧都兼後
松を吹風の下とをうを夕をく
月を三みを
右
秋美原
すみをを命をとをくをみをの松
文月月の秋風を　勝
左勝をを
月新院の新　右遠の中を
や侍をん月ををを物語の

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左右　十三番　中納言

[illegible]

浜松を　[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]秋の月は[illegible]
[illegible]
[illegible]

しらもいかに年ふる雨は降ぬれど
病をすてゝ山の端の月
出やらんとくらしてゆすみを
ながめ月いかゝとまつ侍るを
羽風の雲やうれわんとしてを
雲おくれりや侍らん光又待を
ゆくや

九　十六番　定洵

月をもむしの声ゝ
天をもつ秋てゆく

右勝

秋雲は又ゝ
なれ雨もとゝ
花月よ
をしたゝ
金風
きゝ九月
風雲
すゝ
おゝ

頼康

雨降ぬるの
雨やをの山
月
ゝ侍ゝ
八月
ものゝ
ゝ八月
月の
侍ゝ

九番　十七番　宣旨

新文て月とともに東をこそ山の端ゆ
かりなれ雲のかくれもなき

衣　　美濃

おもしろてもとゝ新しく侍るとゝ
ろかなこそ山に月の夕なをも
九月も東をこそ山に端よりる
ゝろかてこそ山に月入ゝ夕なれ中
秋中八幡の歳京をもとゝ美侍
ゝろかてこそ山に空侍ると月の

とゝ新しておやしてもとゝ新し
正をこそ夕ゝ月を人のふいゝゝ
侍ゝ花も下ゝ白紙燭一すの
ゝろかてこそ山に侍ゝとゝ中
花をゝ月ゝ侍ゝ侍ゝ
（東京）

九勝　十八番　中納言

月侍て新すゝ侍ゝ
ゝ月ゝ一ゝ侍ゝ侍ゝ

大　　光弦

後朱雀よりの月を数へて
家一ぱいとこそはかくれ○
秋さらば月みるとはたくらべる月
の数へてこそ待るやうにん
れなの宮おもうてなる待
う花月毎ちて新とさ海さま
ぶりれあるあるに侍れば
秋月みてあるくまう湖北く
つりとうと後成の附合
りをはれしもれば

月を感情おろう作きはたの物
りそそ作るめ
花鳥　十九番　紙工
姫の東の義とこそて月の海
くの深の秋の家も紅
石
大きの形のもあるまの唐金の
きの形れ月まくなるの
大きもあるもあやしのうみて
宮作りの大きの月を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
きりぎすの鳴くなる声のあらんかぎりは
聞くとあるかぎりは聞くとやとぎすとして
計者きくとて白鷺の雌雄とて
きくとて[illegible]
[illegible]
[illegible]

十番　兼俊

[illegible]
晴るるかぎりの翠の月の[illegible]
[illegible]

宗法

[illegible]
月よりはるる雲[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

永禄六年八月日

題

月前松風　湖上月明　月前鳳

作者

左　　右

中納言　　秋光源

大僧都兼俊　　小弁

沙門　宣信　　秋宗弦

少納言　　藤玄孝
大和　　僧光若
僧意洵　　源頼辰
法橋紹正　　法下兼智

摂政合記類聚之三十六
後陽成院御所合　　文禄三年八月

出

一番　　御製
左　絵
ふる雪のうらみをかこつ世もしらぬ
をとこ山にまてしをやする
右　　内大臣
花ちるうらのひとしほ波のまに
なとあらしの野辺はしらぬ

續庫

如中云関白殿の御事ハ知家卿
心初ハ[illegible]由侍従中之
侍中云花屋[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
列之侍初家[illegible]の意絶[illegible]
り系と思ひやれる[illegible]思[illegible]詞と
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二者

侍

[illegible]
尾花[illegible]
如

[illegible]
[illegible]
侍中云第二[illegible]四[illegible]
[illegible]尾花の神を[illegible]
侍中云[illegible]
[illegible]

教卿

定保卿

判ニ尤斎尾花を折ふく所よ
まれ秀ど玉ら心あまりけれ
し方ヶ所句ふうとて失わるら
ふ〻敬称〻て舞

三番

尤おう　公遠卿

ふ〻れしうをみら所りて分ヶ所
ヒ一の言ふを野ヶ迄ヶ夕暮
方　経元

かしとへ申ふ〻れ遠ふ

さてもふ〻ぬ波川ヒ一の元
方申ニ尤のりてこ云ヒ方ふと
尤ふふ月歩正
尤申ニ風ヶ念
判ニ尤方一ふ尤て尤れる様ふ
ら〻申ふ弱いるヒ紙いふら
ふ尤ヶ念の和作り記ヶや

四番

尤おう　永相卿

寿ふ〻いふ〻ふ名ヶおふ

新あ毎さ之新中しけしの色

右　　為如卿

多家殿へ之ひとをちやと之殿し

し能ひ新ひ新ひ

右中之此心絶しけうさまれ

左中之第二句連文河の流れ

和之左右中此うさ相當せる

おさた

又番　　基孝卿

左將

師と分しに小鷹不入之河之文

帰さまさ書也うの

右　　云經

しの手紙をやかれ莊あて

さまとと之しらて和之れ

右中之文紙法を毛く書法何の

れさるし

左中之れ半しく不相應文御之

不宜

和之文御左右

師と分しに小鷹不入之河之文

帰さまさ書也うの

右　　云經

しの手紙をやかれ莊あて

さまとと之しらて和之れ

右中之文紙法を毛く書法何の

れさるし

左中之れ半しく不相應文御之

不宜

和之文御左右

六番　雲通卿

右　親綱卿

七番　宣卿

右

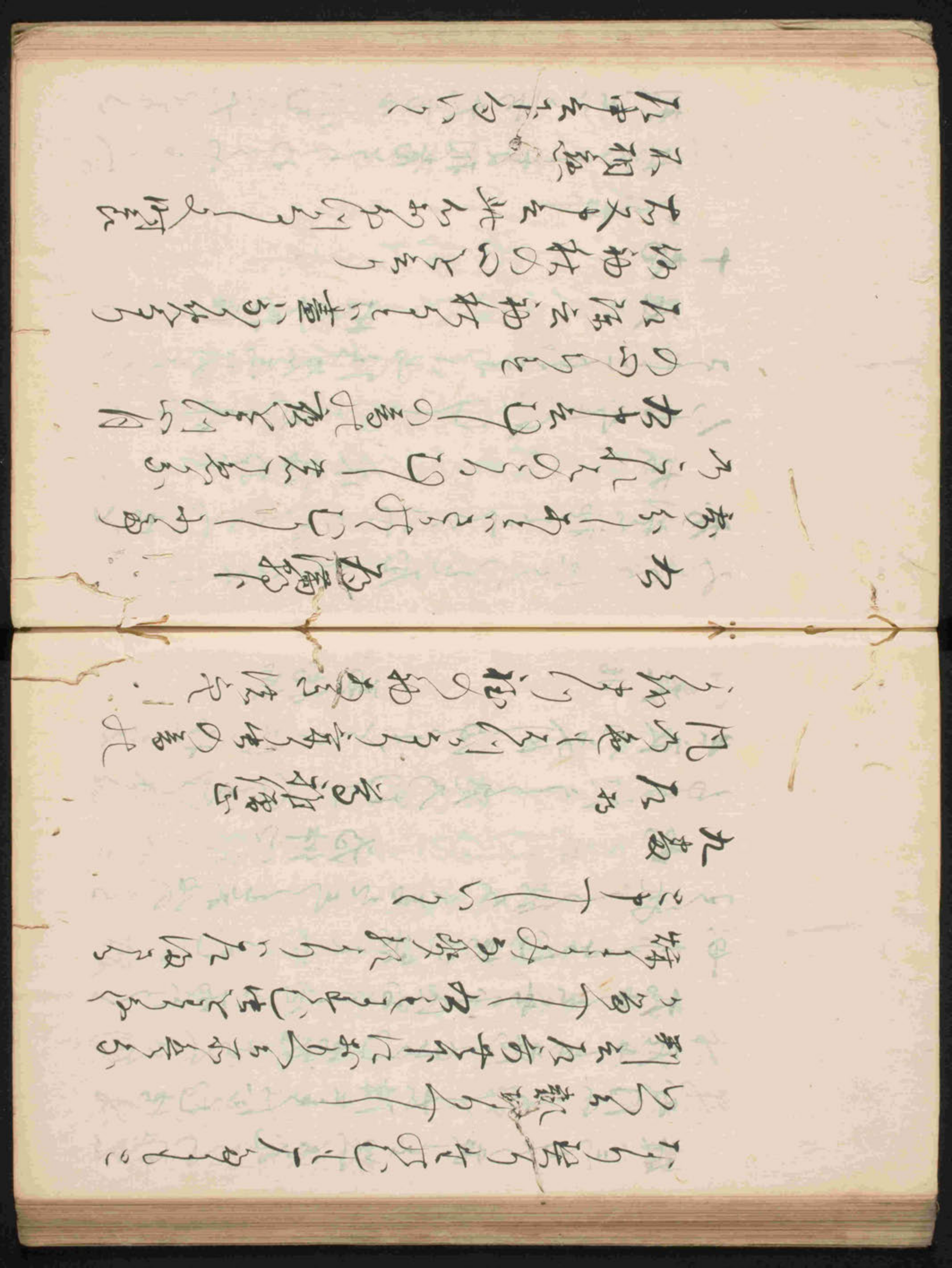
[illegible]

[illegible]

右中弁[illegible]

[illegible]

[illegible]



判ニさ方ハ方中ハ[illegible]ハ方
左方ハ[illegible]相當ハ[illegible]

十番

左　　財通卿

[illegible]山信[illegible]ハ
[illegible]の[illegible]

右　　永秀卿

[illegible]神[illegible]
[illegible]

右ハ一ハ[illegible]逍遥月花ハ[illegible]池
次
左陳云　松虫ハ[illegible]
中ハ其心[illegible]
[illegible]神[illegible]
[illegible]心[illegible]
[illegible]

十一番

左　　月

右　　御製

雲ぬきの山にあるかなきかの
我身ひとつの秋さえぬる月

右　　為成卿

あり明の月あてに氷る水鏡
底みえぬ秋の夜ふかくすむ

右中納言の明月秋の時を
さしかけ給へる宮

右中納言右衛門督加賀
別当左大弁文章の徒とかうるに心
行業等の化をしたふ是則為

主の智をもて六帝相
叶ひ海を治め
なしかたし又為家の月緑は河の音
を今の身に聞くこと
あるれをもて
徒をの行年百下仙若老の
とは昔は宮殿を居を傳して
定中行しいく

十二番

右　　雅教卿

雲乃上ゝ月宗とゝ[illegible]
秋先ゝ[illegible]秋のよゝ月
右　西行法師

月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ月とゝ[illegible]
しゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
右中云[illegible]
右中云定[illegible]おりゝ[illegible]
列ゝ[illegible]ゝとゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

十三番　公遠卿
右

ゆゝ出ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ山ゝ[illegible]
月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
右　重保卿

雲ゝ上[illegible]ゝ毎三年ゝ
門池ゝ月ゝ[illegible]
右中云[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ山ゝ
右中云不有思所

列ゝ左数ゝ
ゝ物語し又ゝ世ゝ
懐旧いゝ方又ゝ
定ゝゝゝゝ

十四番

左方　永相卿

花ゝ色御階ゝ毛色ゝ
月ゝ名ゝゝ

右方　新垣卿

三笠山下草ゝ
ゝゝゝゝ

ゝゝゝ
右中ゝ月ゝ名ゝ
行ゝ用ゝ

右中云三笠山ゝ月ゝ
列ゝ左玉階ゝ月ゝ
神威ゝ

十五番

左　基孝卿

月ゝ
ゝ

ゝ代ゝ
ゝ論ゝ
ゝ月ゝ
ゝ百ゝ笠山ゝ
ゝ准ゝ

右絵

まとふ〻神代とけてらもや
紅葉つ
るるかとと出る月とも
たゆ中云おりふるふる
たゆ中云ふとくしたきの
列云たゆ諸とおりふるふたこと
ふくしき理ふる神代のふ絵
ふつむ

十六番

右方

重通卿

おもはぬ時ふるれはの中よ
月をあふ時ふるふる

右

円大石

ふるふるといくあ里ゆくさふん
ふるさかりあるさのふ月
ゆ中云新中の行ふふ
たゆ中云世新津
判云たゆ兼柿本古風右思千里月
新ふふにあふふとおや

十七番

左衛

天徳代々の月うたあはせ

ひとり曲の中の中きみの家

右

右仲

左地とりあつめしらやさきの玉

をのをのと月をひらうあせ

右中方

左方勝負

判方左方勝ちたる歌

ら無

文宣卿

十番

左持

紅葉も舞ひ見ぬ人さきさき法

尾上の月をうれひなく所

右

永春卿

春の色の花ちらすの嵐

ちらすの月曲ちらす三ちれる

右中方勝負

左中方みちてる月のかつらいて

判方左方勝ちたる歌

勝卿

第

四位の侍従の中将たちけるを
き和らりの給ふ
十九番
左　　為相卿
和らいたんらうつつの有りしを
夜を明月毎月とまつ
右　　雅資卿
身とてとてとかの家に有りし和の月
うつつとおもしてあることつてしく
右申云宜しん

左申云迷惑之仕心覚
取云左方宜しきこと侍りか
し但右方家業殿之後形極之歌
とくくして所とてきれつやさ
しくつつ侍りまり給ふ
以
廿番
左　　時通卿
萩乃葉の言さやゆりあきの夜と
ふさ先んふ月とみる

右

さらうとおもひしも無能なれども
月乃入はやうにと言葉をかけ
かたくなる世間乃
たゆたふ心乃月つゆ
おなじ方なれば月をしたがひに
おもひたるさまなりせんら
はべり

忠

大夏

右 掃部

ほのかなるかたちの花をゆくさきの
をとに学て毋こそ
右

親綱卿

ちりぬるをなにはの人をとゝまるとゝ
ちらぬ時なりといふにとゝまり
なかの中に源氏物語の部をとる
たゝしに右の弁孫
判に左の弁姿初妖艶のくみ
さらに作り右の弁とあるを

つゝはれり仏道とたゝかき
さゝへ

六二番

左　雅教卿

いまは又神のゝみさきを知へ
ゝ乃ちかられと下葉の雨
如法　為仲卿

ちかれ所ゝ所ゝの夕雲の
ゝ見ゝ雨を
ゝ乃ちゝ雨を

乃中ゝ宮殿
判ゝ所ゝの雨乃下葉ゝ所
ゝの露ゝけり

六三番

左　公遠卿

ゝゝの名ゝ
ゝゝ

右　兼廉卿

ゝのゝ
ゝ

普賢菩薩

不空羂索

観音

[illegible]

[illegible]

[illegible]

踏みくだくこゝろ忘まゝこゝろのうち
みをつくるこゝろおりしり入汝

右　　永巻新下

みくしゆ色ゝうゝさゝをとゝるしれ
神にたゝみゝされいろ而こゝろ面
右中云歌四手まれ
九中云色のこゝろ多いて
判云九右ゝ世相嵩せりゝ九拾
如くし
廿六番

九拾　　童通卿

みゝ紙ゝ拾ゆゝ之ゝ恋ゝ有ゝ家やをと
をのゝ之ゝ神とゝ人ゝみ歌ゝや
右　　紅葉つ
身ゝ知ゝとゝみゝりしゝこゝろ神ゝ
とゝのゝもゝつゝもゝ拾ゝきゝゆゝくゝれゝ乃ゝ歌
右中云　如くし
九中云　色巨部
判云九　竹中
拾ゝ拾ゝ歌ゝ詠ゝ之ゝ　恋ゝ心

[illegible]

中[illegible]

廿七番　左持　元宣卿

[illegible]

為四[illegible]

右　四人左

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

判云左奇左言人年[illegible]

[illegible]

左下句[illegible]宣行[illegible]

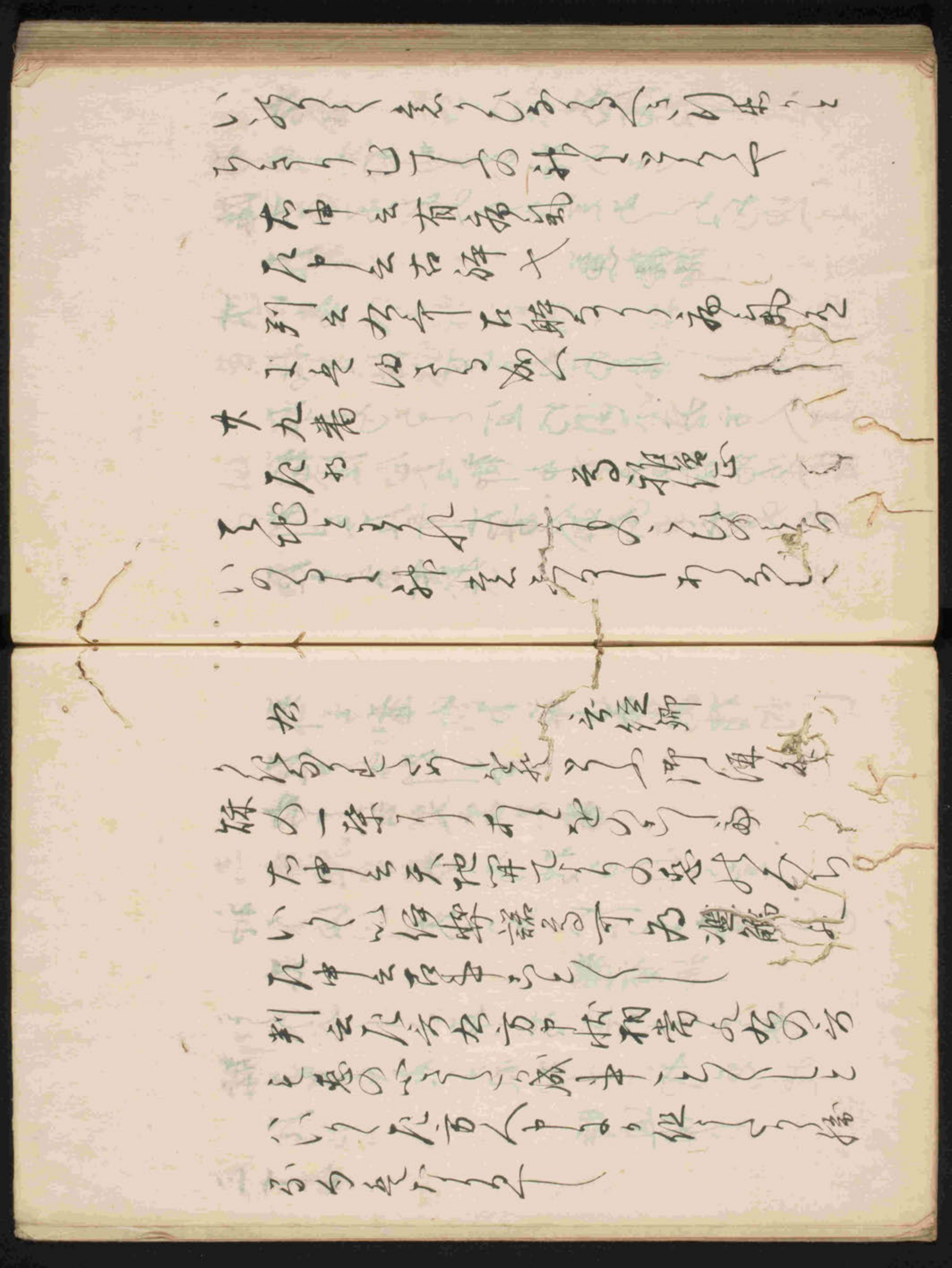
[illegible]

大い番　左　兼盛卿

海士乃[illegible]

[illegible]

右持　為信卿



三十番

九月

時通卿

[illegible]

[illegible]

太

麓資卿

神[illegible]

[illegible]

如中云文字不審

九中云別[illegible]

列云[illegible]

[illegible]

[illegible]

左

御製　勝門大后　勝貴嬪　打為成
雅教　貞重保　貞為仲　打為信
公遠　打経元　貞為成　打重保
永相　打為成　貞重保　打経元
基孝　打言経　打永孝　貞経元
重通　貞貴経　打門大后
光宣　稙輝資　稙為仲　勝門大后
為勝　勝為仲　貞為信　稙永孝
為祝　打為信　打言経　貞輝資

右方

門大后　貞門製　貞光宣　打重通
重保　稙雅教　稙永相　打公遠
経元　打公遠　打重通　稙基孝
為成　打永相　打門製　稙公遠
言経　打基孝　稙公遠　貞時通
貴経　稙重通　打永相　打為祝
輝資　貞門製　貞光宣　稙為祝
為仲　打時通　稙為祝　貞為成
為滿　打雅教　貞為仲　稙為祝
打為祝　稙為祝
打為祝

時通　貞永孝　稙言経
打輝資

永孝　勝門通　貞為勝
打基孝

讀師
論師
判者　内大臣　三条西

110X
646
88

右續古今和歌集二十六帖奥書ニ
後日信之以正筆之本令書写者

于時元禄十四年